

# 現代の子どもの育ちを どう見るべきか？

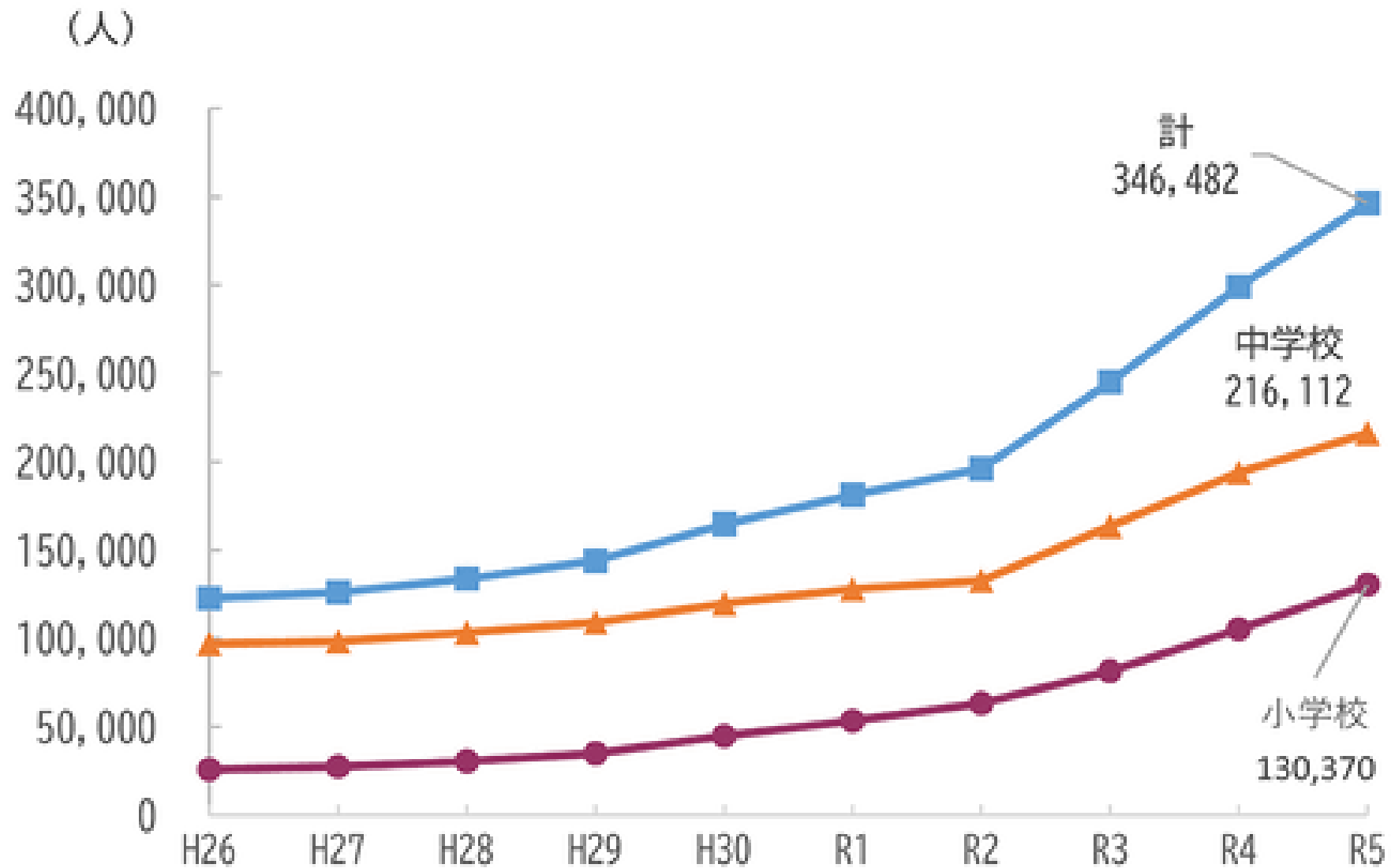
タラ夢公式”PAVO来日リアルイベント”



家保研、エドゥカーレ  
保養協 汐見稔幸

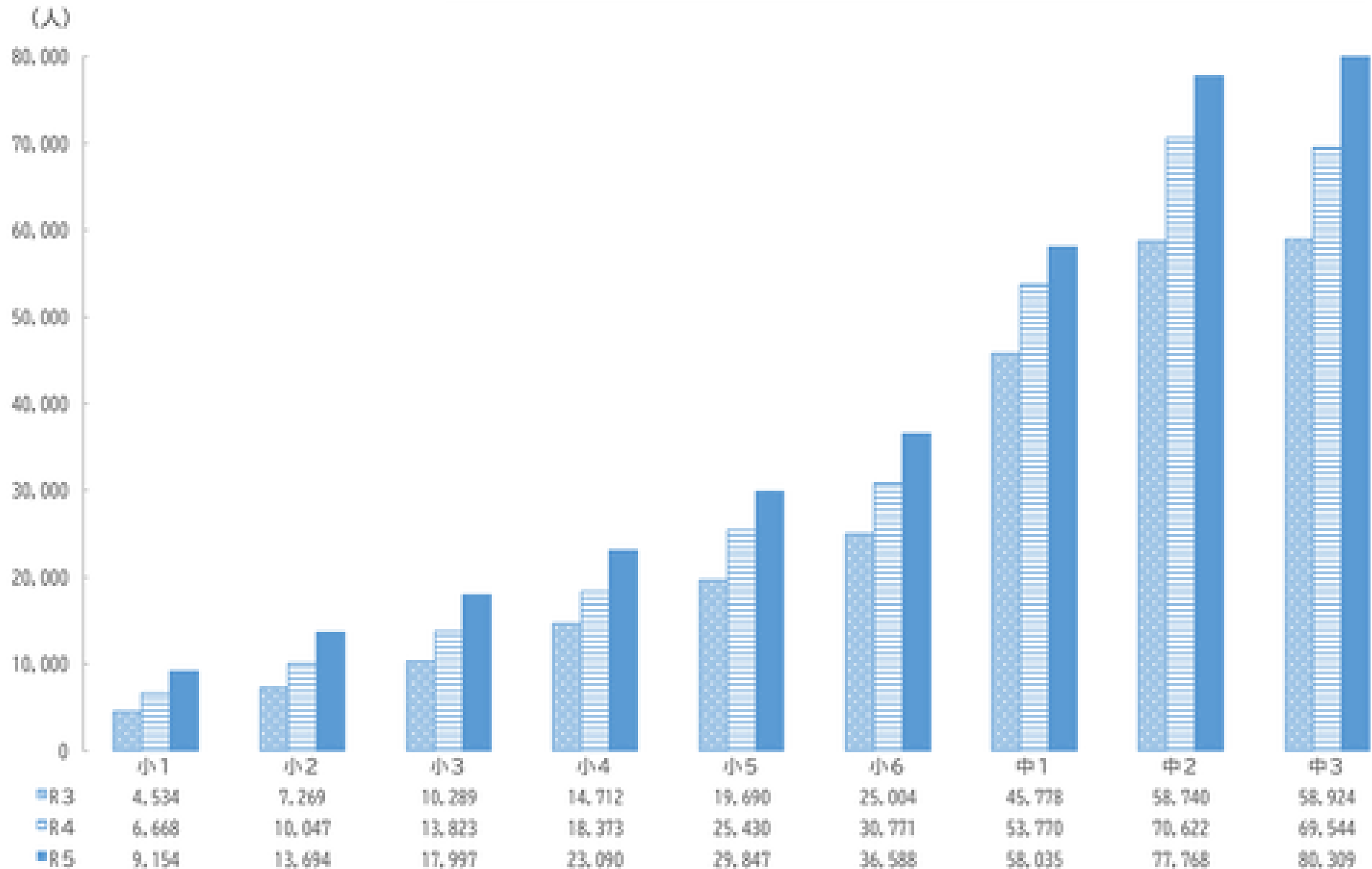


## 不登校児童生徒数の推移



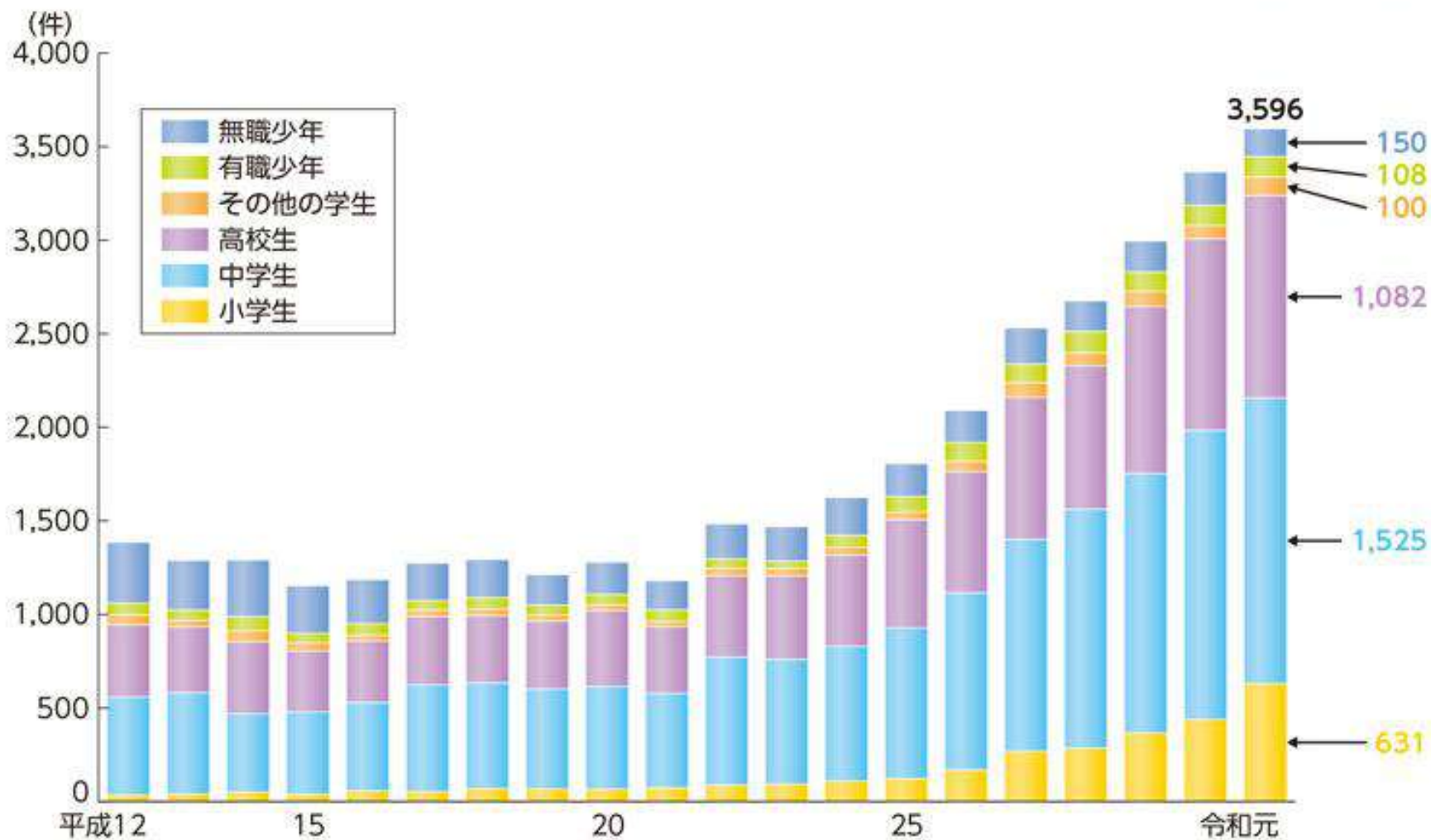
## 学年別不登校児童生徒数

●学年別不登校児童生徒数は、全学年で前年度と比較して増加している。



### 3-1-5-1 少年による家庭内暴力 認知件数の推移（就学・就労状況別）

（平成12年～令和元年）



- 注 1 警察庁生活安全局の資料による。  
 2 犯行時の就学・就労状況による。  
 3 一つの事件に複数の者が関与している場合は、主たる関与者の就学・就労状況について計上している。  
 4 「その他の学生」は、浪人生等である。

## あるネット記事から

### 小学生に増える暴力行為、背景に子供たちの抑鬱傾向

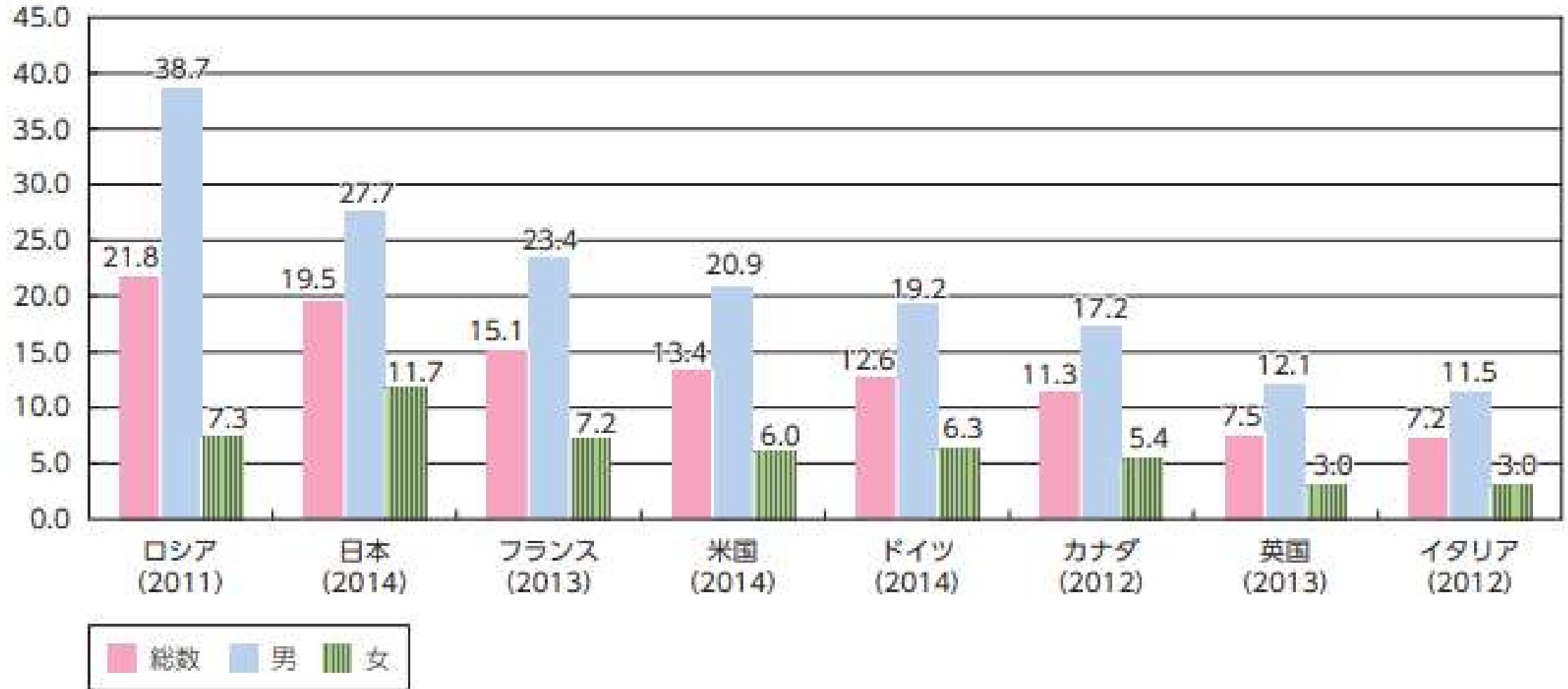
昨今小学校における暴力行為が急増している。

1997年は1432件だったのに、2020年には4万1056件と約29倍だ。対教師、生徒間、器物損壊のいずれも増加しているのだが、生徒間が3万548件（全暴力行為事案の74.4%）と群を抜いている（\*1）。

\*1 文部科学省初等中等教育局児童生徒課「[令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について](https://bunshun.jp/articles/-/52186)」  
(<https://bunshun.jp/articles/-/52186>)

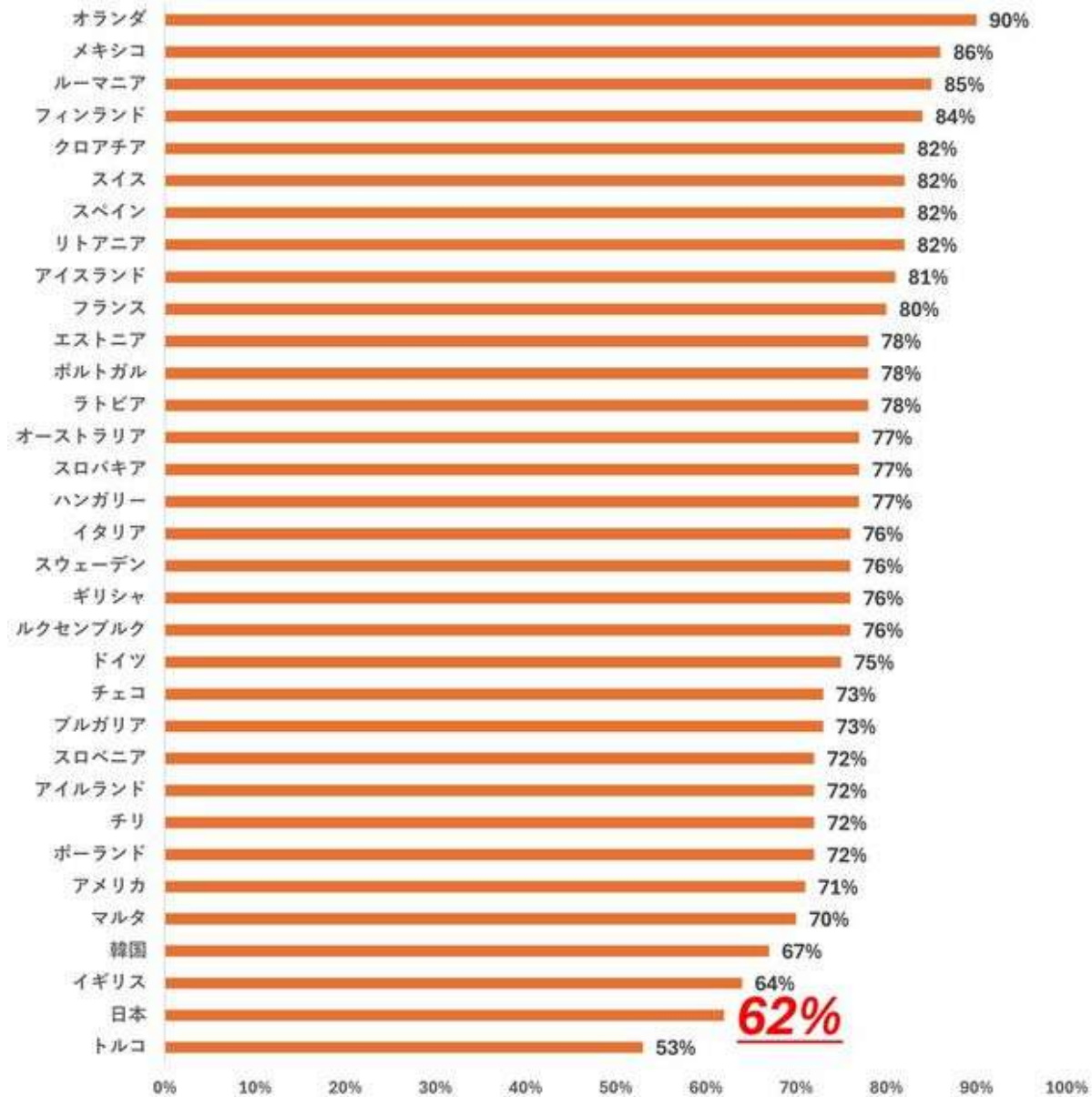
第1-38図

主要国の自殺死亡率



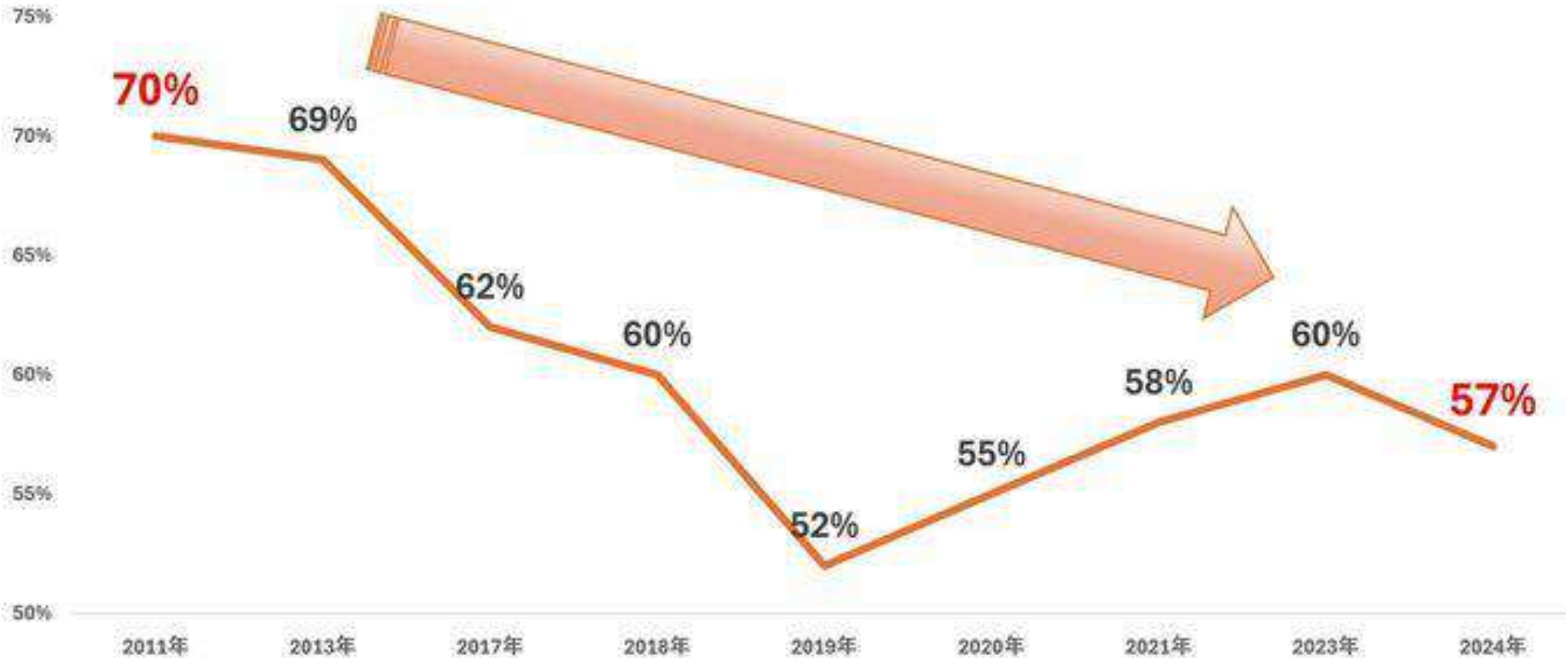
資料：世界保健機関資料（2016年12月）より厚生労働省自殺対策推進室作成

図表4 生活満足度が高い15歳の子どもの割合(%)



注：生活全般の満足度に関する設問（「キャントリルの梯子」尺度）で、0～10のうち6上を選んだ子どもの割合。

**図表1** 日本人の幸福度の推移

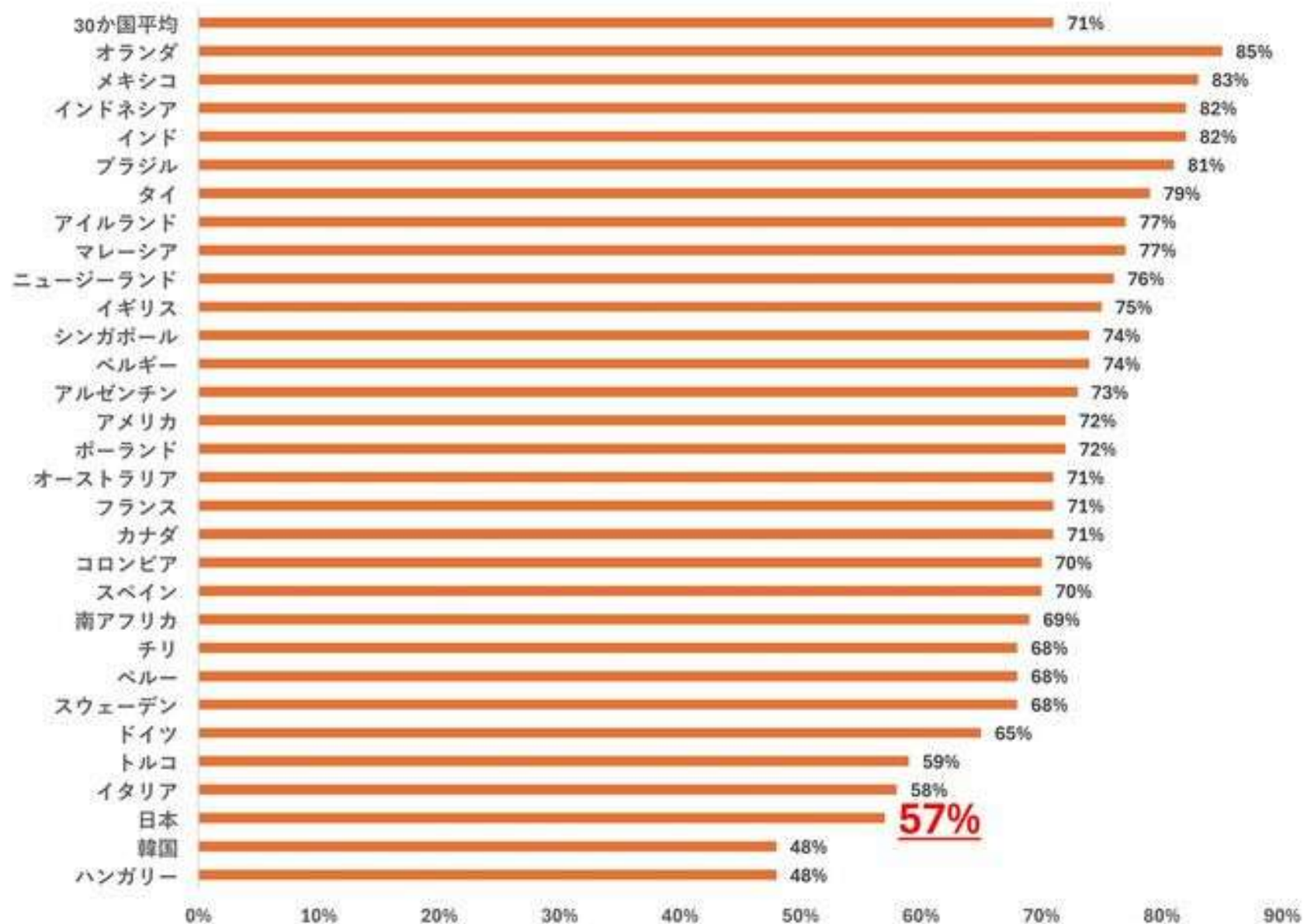


注：表中の値は「すべてのことを総合すると、あなたは「とても幸せ」「どちらかといえば幸せ」「あまり幸せではない」「まったく幸せではない」のうちどれだと言えますか？」のうち、「とても幸せ」「どちらかといえば幸せ」と回答した割合を示している。

出典 = イプソス株式会社 (2024) 「2024年イプソスグローバル幸福感調査レポート」



図表2 2024年の各国の幸福度の比較



注：表中の値は「すべてのことを総合すると、あなたは「とても幸せ」「どちらかといえば幸せ」「あまり幸せではない」「まったく幸せではない」のうちどれだと言えますか？」のうち、「とても幸せ」「どちらかといえば幸せ」と回答した割合を示している。

# 発達障害といわれる子どもも…

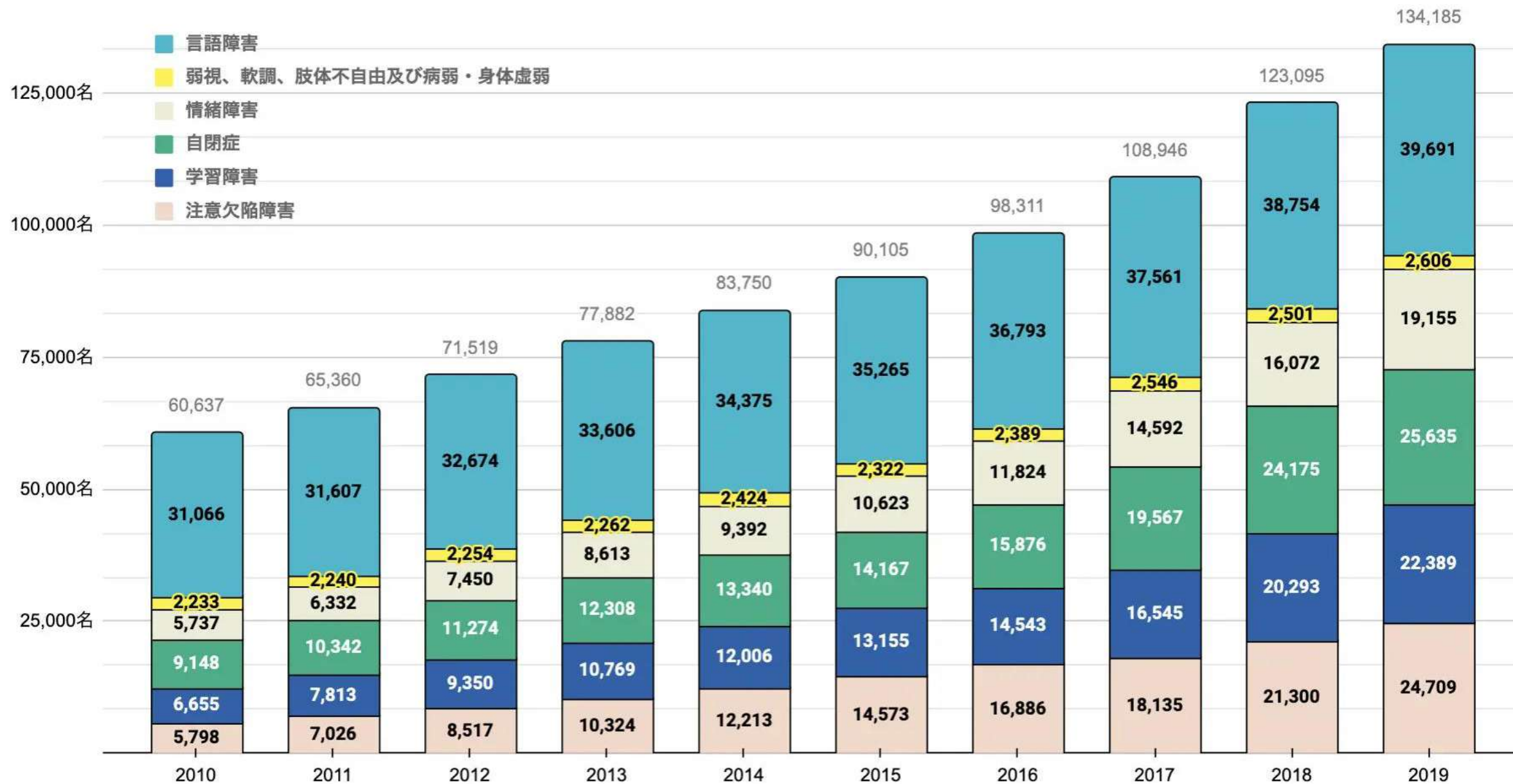
「知的発達に遅れはないものの学習または行動面で著しい困難」を示し、注意欠陥多動性障害（ADHD）など発達障害の可能性があると推定された小中学生は**8.8%**で、前回調査（6.5%）より多かった。全国の公立小中学校で推計すると**70万人を超える。**

発達障害の可能性のある児童生徒	
小学生	10.4%
中学生	5.6%
高校生	2.2%

(出所) 2022年の文部科学省調査

彼らは不登校・いじめ⇒**社会的脱落⇒問題行動、**  
とたどる可能性が大きい

# 通級による指導を受けている児童生徒数の推移（各年度5月1日現在）



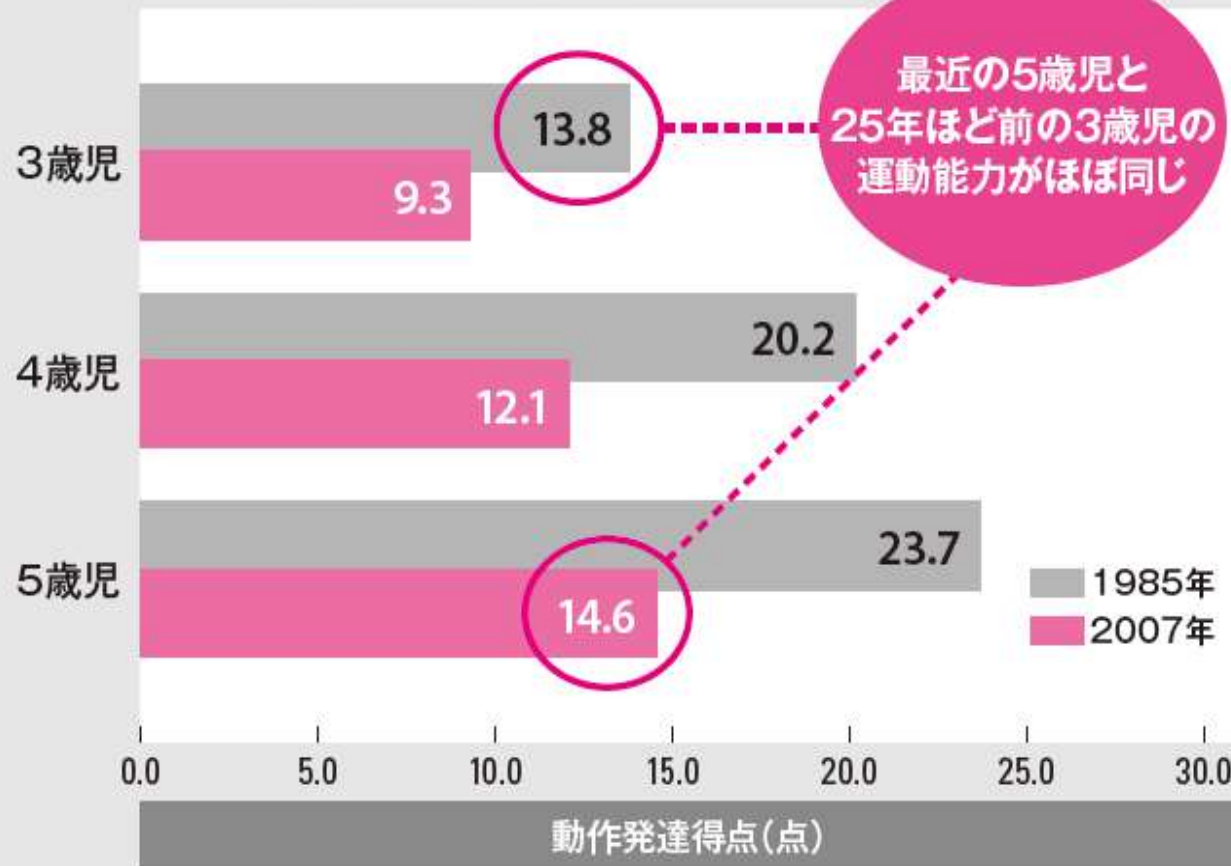
※2018年度から、国立・私立学校を含めて調査 ※高等学校における通級による指導は2018年度開始であることから、高等学校については2018年度から計上。

# 子どもの育ちの歴史的変化

山梨大学の中村和彦氏の研究

子どもの運動能力 最近の5歳児の運動能力は25年ほど前の3歳児とほぼ同じ

● 基本的な動作の得点の比較(男児)



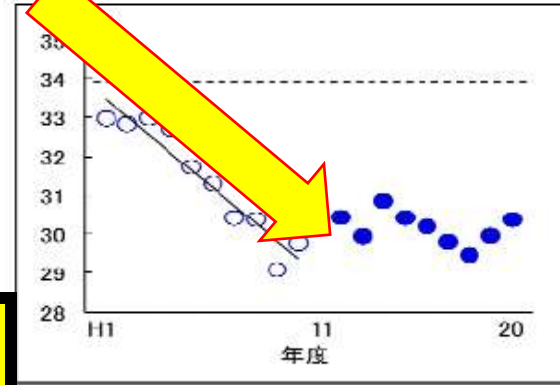
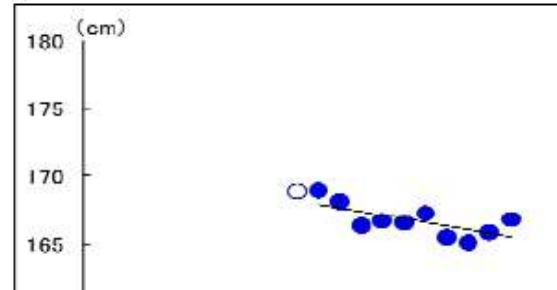
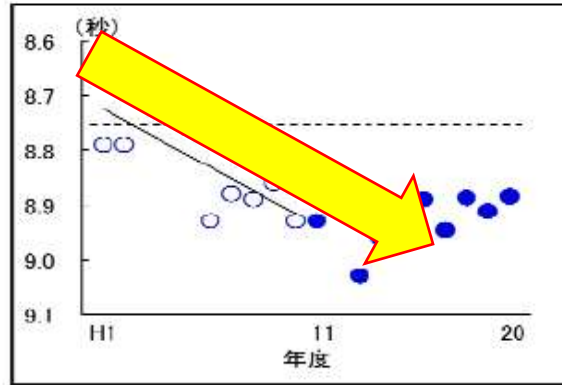
中村先生は2007年にある地方都市の公立保育所の3歳～5歳児の基本的な運動動作（走る、跳ぶ、投げるなど7項目）を撮影し、1985年に撮影した同様の記録と比較・評価しました。その結果、2007年の5歳児の基本的な動作は、25年ほど前の3歳児とほぼ同じレベルであることがわかったのです。生涯のうちで最も動作の習得に適した時期である幼児期に、運動能力が十分に伸ばせていない背景には、遊びの質と量の低下があると中村先生は考えています。

※中村先生の調査による

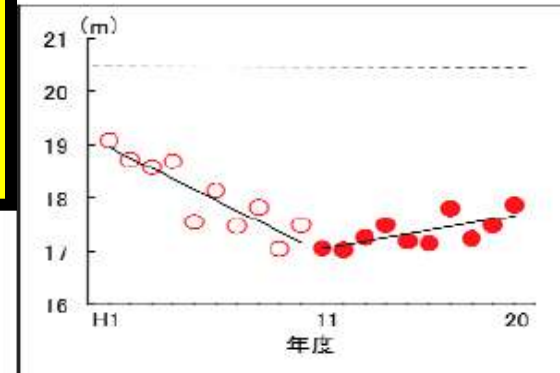
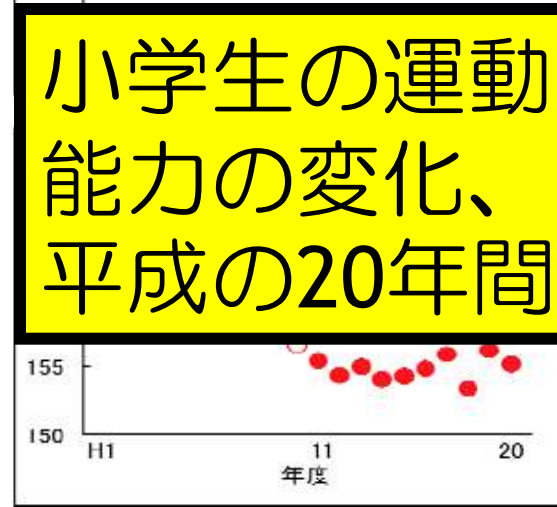
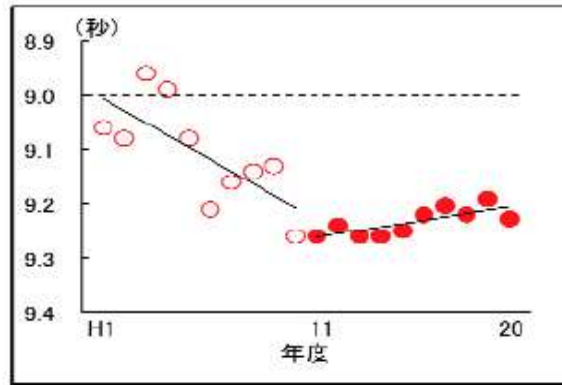
◎調査対象：2007年：地方都市Aの郊外に位置する公立保育所に所属する3～5歳児154人／1985年：地方都市Bの郊外に位置する公立保育所の3～5歳児123人

◎評価方法：走る、跳ぶなどの7項目について1～5点までの5段階の評価を行い、得点を比較。

	50m走	立ち幅とび	ボール投げ
男子	横ばい	低下	横ばい
女子	向上	横ばい	向上



小学生の運動  
能力の変化、  
平成の20年間

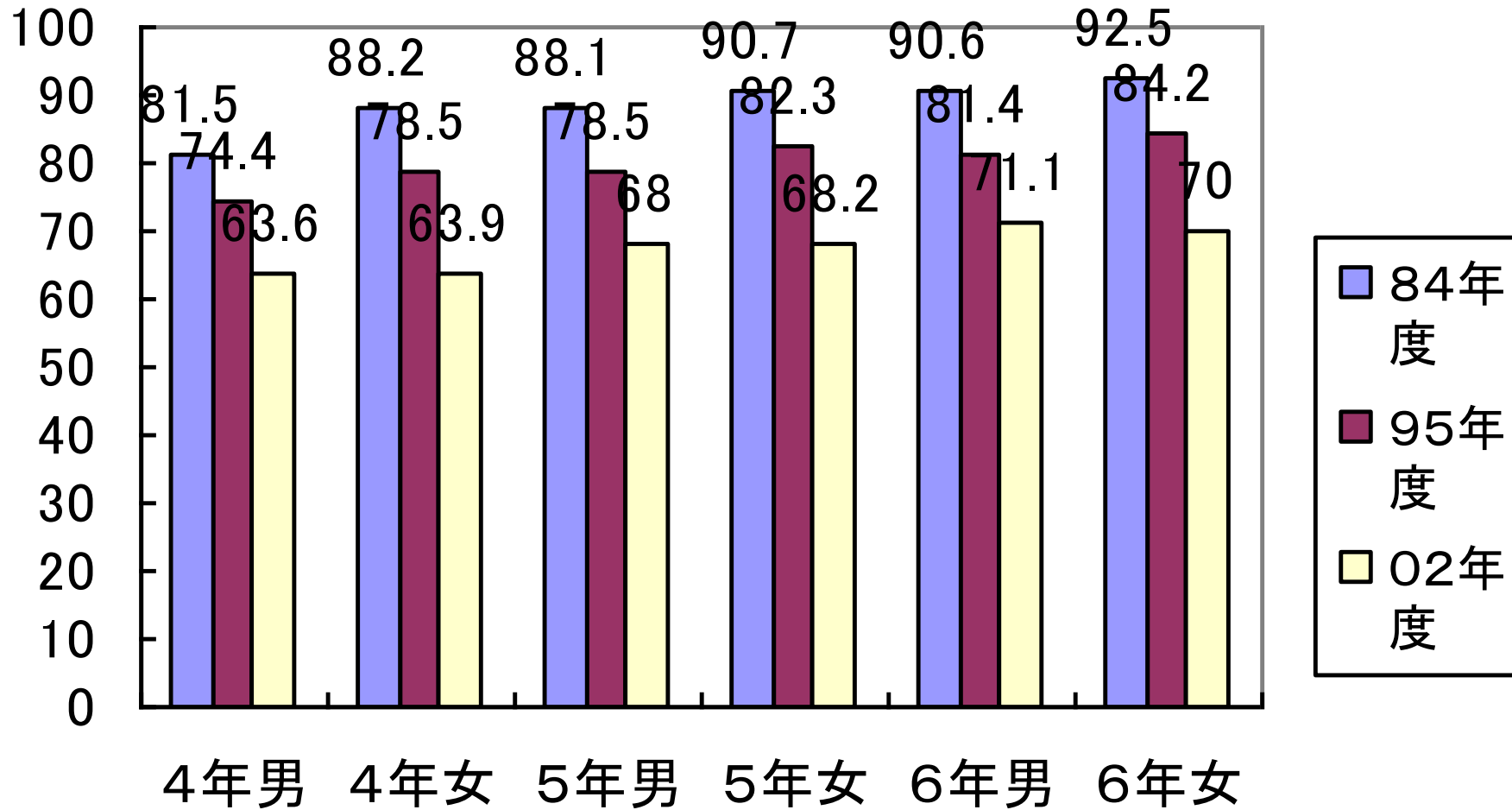


- ※ 1. 上の表はここ10年間の傾向を示している。  
 2. 上に示した図は、過去20年間における体力テスト結果の年次推移を示している。  
 3. 10年ごとの変化の傾向を示しており、回帰直線が引かれている部分は、低下または向上の一定の傾向が確認されたことを示している。  
 4. 図中の点線は昭和60年度の水準を示している。

最近20年間（平成元年度～20年度）の走跳投の変化 小学生（11歳）

# 運動能力の低下の実態(埼玉県教委)

## 4～6年の逆上がりができる割合(%)



# 少し前の子どもの昼間の様子です















そのさらに少し前の子ども遊びです



原賀隆一『ふるさと子供 遊びの学校』より



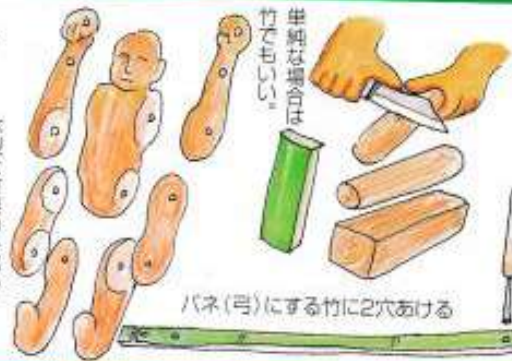


# 体操ロボット

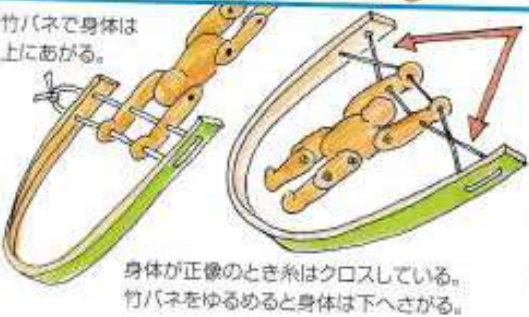
これは、左右に動く力で、正面回転運動を起すように作られています。足先の面には動きは滑らかな作用です。

「体操ロボット」という名称は私が個人的に付けた名前です。当時、中学生の頃、近くの高校生の先輩が作り方を教えてくれたと素直に呼んでおりましたが、その頃、鉄道の模型で、足先の面には動きは滑らかな作用です。足先の面には動きは滑らかな作用です。

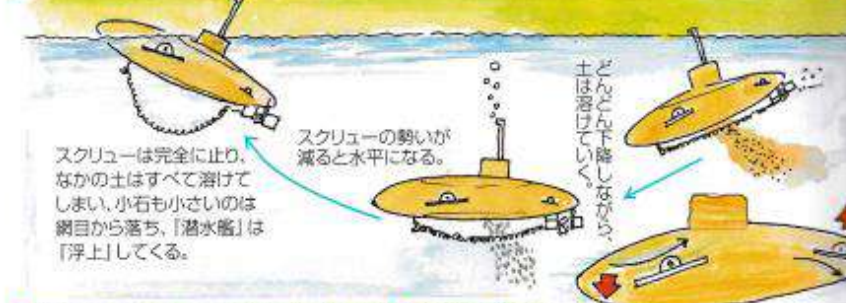
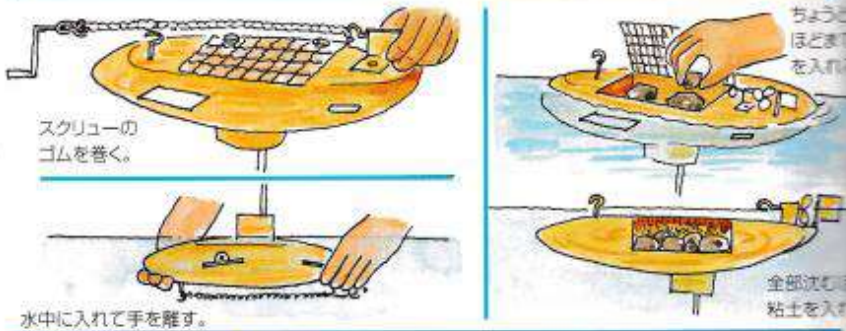
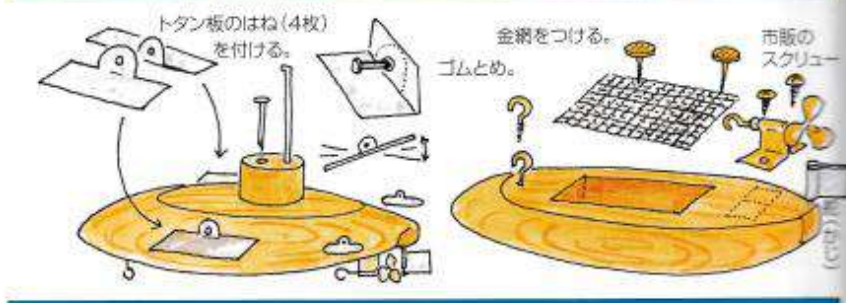
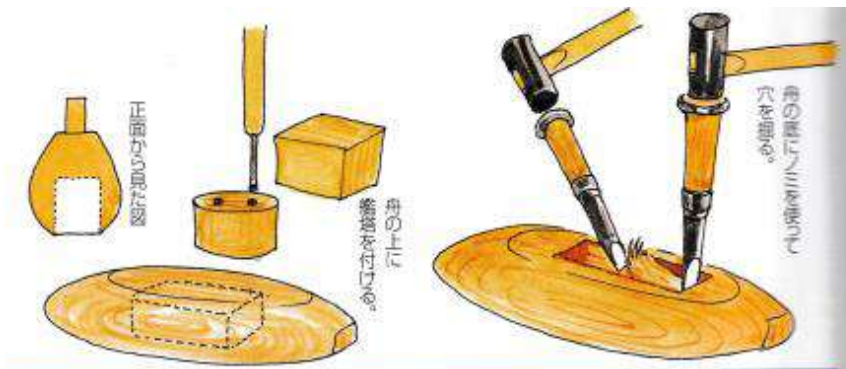
「体操ロボット」という名称は私が個人的に付けた名前です。当時、中学生の頃、近くの高校生の先輩が作り方を教えてくれたと素直に呼んでおりましたが、その頃、鉄道の模型で、足先の面には動きは滑らかな作用です。足先の面には動きは滑らかな作用です。



**作り方**  
人間のようになりたいときは、軟らかい木を彫刻する。



竹パネで身体は上にあがる。身体が正像のとき糸はクロスしている。竹パネをゆるめると身体は下へさがり、最終的に「トリス」の状態になる。



スクリューは完全に止り、なかの土はすべて落けてしまい、小石も小さいのは網目から落ち、「潜水艦」は「浮上」してくる。スクリューの勢いが減ると水平になる。

理工 物理 体育 親子DIY (理科)

# 現代の子どもの育ちの特徴は？

●人類史の中ではじめて2つの特徴を持つようになりました。

①地域の自然や民家の前や中で自由に、集団で遊び

- ・身体のしなやかさ
- ・好奇心、興味関心
- ・工夫力、デザイン力、アイデア力
- ・相談力、がまん力、感情コントロール力等

を自前で育てることが困難になってきたことです。

②家庭の中で仕事を与えられ、自分も家族の運営に参加しているという実感を持つことが困難になってきた。役立ち感の喪失ですね。

- 他方で、早くから、生活のあらゆる面で、**社会の論理や倫理に従うように**育てられるようになりました。
  - ・遊び→公園→ルール→それに従って遊ぶ
  - ・△歳になったから、どこかの塾に行く。学びのスタイルの画一化、形式化。
- 学校は正しいか正しくないかの**二分法が基本**の世界。  
しかし社会には正しい親子関係、正しい夕食の食べ方等はない。  
その都度その都度、**条件に応じて適切な仕方を考案する**のが実際。
- 別の言い方をすると、**偶然生じる問題に的確に対応するのが生きる力**、それがうまく育っていない。**正解ややり方の指示があるとできるが**、それがないと**不安**。→自己肯定感の低さの要因？



# そこにもう一つリアリティの変容の問題

- ネット社会の情報を脳が感じるリアリティに組み込んでいく生活。
- しかしネット情報は誰かが作為的につくった情報。人の情報を自分の情報のような思い込み、かつ五感を使って（実際にある世界、自然の等から）導いた自分で価値づけした情報の世界をあまり持っていない。
- 情報界が世界とつながっていない知の世界とリアリティ。これは・・・

# さてどうするか？

- 乳幼児期からの育ち→**保育が担う、の位置づけを社会がおもいきって高める**
- 五感と身体と他者との協働の体験**で、自分たちで情報を蓄えていく体験をどの子にも**十全に保障**する。
- 社会のせいではみ出さされてしまう人たちに社会が**思い切っていていねいなサポートをするシステムを必死でつくる**。自殺者をこれ以上**絶対に増やさない!**等々